



SEIKEI
INSTITUTE FOR
INTERNATIONAL
STUDIES

SIIS

成蹊学園 国際教育センター

Vol.
23

NEWS

2016.4



特集

Feature

グローバルコミュニケーション

World Englishesという言葉を知っていますか？ネイティブ英語ばかりでなく、世界にはさまざまな英語がある、という考えです。昨今のインターネットの普及や、ビジネスなどさまざまなシーンにおいて、英語はコミュニケーションツールとして主要な役割を担っています。世界人口約73億人のうち、約18億人もの人々が公用語もしくは通用語として英語を話しているというデータがあり、英語が話せると世界人口の4分の1にあたる人々とのコミュニケーションが成立することになります。今号は、成蹊大学生のさまざまなグローバルコミュニケーション体験や英語でのコミュニケーションをどう感じているかをご紹介します。みなさんはどんなコミュニケーションをしますか？

特集関連は中面でも紹介

成蹊大学の留学制度や手続き、奨学金に関する情報がわかる

海外留学ガイド 2016

を国際教育センターにて配布中！

サマースクールや短期留学に参加して Englishes を体験。コミュニケーションに対する考え方が変わった！



恥ずかしがらずに
とにかく話す！

佐藤 有里恵 さん (文学部)
2015年度モナシュ大学 サマースクール参加

留学前は恥ずかしくて、英語の授業でもカタカナ英語を話しかちで、できれば話したくないと思っていました。しかし、現地では話さないと何も伝わらないので、拙くても話しかけるようにしました。メルボルンの人たちは、自分が必死に単語を並べているだけの会話も一生懸命理解しようとしてくれ、時間をかけて一緒に解決してくれようとしてくれます。街中でも大学内でも英語以外の言語が聞こえてくるほど、オーストラリアには多くの移民がいます。彼らは母国語が英語ではなくても、堂々と英語を話しています。一方、おそらく母国語が英語である人々も、それらを受け入れ尊重しています。そういった環境だから、自分の拙い英語も受け入れてもらえたのかなと感じました。とりえず話してみようと思うようになりました。



街中でもEnglishを実感

横倉 真美 さん (理工学部)
2015年度モナシュ大学 サマースクール参加

Englishesという概念はサマースクール中の特別講義で初めて知りましたが、街中で見かけるCampus CentreやLiftといった表記や、ホストファミリーがシンガポール出身だったこと、中国系やインド系といった人たちが日常的に英語を話しているのを目にし、Englishesを実感することができました。そして、自分の知らない難しい英語を辞書で引くよりも、自分の知っている簡単な単語を並べて、一生懸命話すことのほうが相手に伝わることも学びました。これからはコミュニケーションとして英語を生かす努力をしたいと思います。



英語でのコミュニケーション
を楽しめるようになった！

内田 裕日 さん (経済学部)
2014年度オークランド大学 短期協定留学参加

短期留学に参加して、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを知ることができました。オークランド大学には母国語が英語ではない人たちが多く在籍しています。キャンパス内でアンケート調査を行うフィールドワークのときに、さまざまな英語のイントネーションを耳にしました。さまざまな人種と文化が混じり合う街で1ヶ月間生活してみて、英語や世界についての考え方が変わり、英語でのコミュニケーションの大切さを実感した1ヶ月でした。



新たな学習意欲が芽生えました

田島 瞳 さん (文学部)
2015年度モナシュ大学 サマースクール参加

私はこれまで、英語学習を「試験に合格する」「良い会社に入る」ための手段としか考えていなかったけれど、ホストファミリーと会話するうちに、次第に「この人たちともっとコミュニケーションを取りたい！」と能動的な英語学習意欲が芽生えました。このことは、モナシュ大学サマースクールに参加して得たものの中で、なによりも価値があると思います。



非英語圏への留学でも慣れるまでは英語を併用！



韓国語と英語で国際交流

小泉 麻子 さん (2015年度文学部卒)
高麗大学 2014年度派遣留学生

高麗大学では英語でオリエンテーションが行われました。授業履修などのキャンパスライフや携帯電話などの契約手続き、キャンパスツアーなど、すべて英語で説明されます。また、KUBAという留学生をサポートしてくれる団体での共通語は英語。説明から会話まですべて英語で行われます。世界各国からの留学生と一緒にランチを食べたり、週末のイベントに参加したりと韓国語と英語で国際交流することができました。



最初は中国語以外の語学で苦労…

平野 郁子 さん (2015年度法学部卒)
復旦大学 2013年度派遣留学生

復旦大学でのオリエンテーションは、中国語での説明の後、英語でも通訳されます。中国語が聞き取れないときに、英語通訳を聞き取って理解することができ、安心して手続きができました。最初のうちはクラスメートとも中国語のほかに英語で話したり筆談することもしばしば。英語が苦手だったので、クラスメートとなじむのに時間がかかりましたが1ヵ月もすると中国語での会話に慣れ、有意義な留学生活を送れるようになりました。



交流ツールとして語学は重要！

オリエンテーションでの口頭説明はドイツ語だったのですが、英語表記のスライドもあり助かりました。ボン大学には世界中から留学生が集まってきており、会話は英語が基本です。私は英語が得意ではなく、ドイツ語もコミュニケーションを取るにはまだまだ不十分な状態だったので、日本人留学生との交流がメインになってしまいました。もっと積極的に英語でコミュニケーションしていたら、さらに交流できたのではと思います。

星名 香苗 さん (文学部) ボン大学 2015年度派遣留学生

海外ボランティアや身近な国際交流でのコミュニケーションツールはさまざまだけど、英語が最強！



コミュニケーションで関係を築く

佐久本 奈緒 さん (2015年度文学部卒)

在学中に海外ボランティア活動を行ったフィリピンは、現地語のタガログ語が第一言語ですが、多くの人が日常的に英語を話す環境です。また、マレーシアの活動先では、フィリピン人の施設長が英語を話していたため、職員も英語を話す努力をするなど、英語の必要性を感じました。しかし、都市部を離れると英語を話せない人も多く、ボランティア活動に参加する日本人全員に英語力があるわけではありません。マレー語などの現地語しか話せない、一方、日本語しか話せない者同士が言葉の壁を越えてコミュニケーションを図り、よい関係が築けているのを見ると言葉だけではないことにも気づかれます。さまざまな民族が共生するマレーシアでは、コミュニケーションを通して民族や国を越えてよい関係が築けていると思いました。



英語は国際社会で一番話されている言語

前田 佳澄 さん (法学部)

ホストファミリーとして台湾やオーストラリアからの留学生を受け入れた際や海外旅行では、英語でコミュニケーションすることが一番多いです。それは、国際社会で一番話されている言語が英語であり、双方に共通する言語がない場合、お互いに理解することができる言語が英語だからです。自分に英語以外のコミュニケーション言語がないこともひとつの理由です。しかし、ボランティア活動で赴いたタイでは全く状況が異なりました。英語を話せない人が多かったため、日本から持参したタイ語の会話帳や身振り手振りでコミュニケーションを図りました。初めて英語以外の言語(というよりはジェスチャー)でコミュニケーションを取ったのですが、それでも相手に伝えたいことを伝えることができ、自分自身も驚くスピードでタイ語の単語を吸収していました。タイでの経験から、英語が必ずしも必須であるとは思っていませんが、英語をマスターしていれば海外の人と関わるうえで避けられるトラブルもあると思います。



留学生と外国人研究員、成蹊大学生(学生アドバイザー)が生活する国際交流会館では、相手の気持ちも考えてコミュニケーションすることが大切。



留学生とのコミュニケーションから学ぶこと

國津 祐貴 さん
(2015年度学生アドバイザー)

国際交流会館にはさまざまな国籍やバックグラウンドの人が一緒に生活していますが、お互いにネイティブかノンネイティブかをまったく意識せずに、コミュニケーションツールとしてごく自然に英語を話しています。SNS上で使う言い回しなど、彼らとの会話から学ぶことも多いです。しかし、彼らは日本語を話したい、上達したいという熱意を持っているので、英語を多用しないように気をつけています。



Englises が面白い！

安田 胡桃 さん (2015年度学生アドバイザー)

英語を話すことは、共同生活をしている中で伝えたいことを伝えるためのコミュニケーションツールのひとつに過ぎません。それは授業とは違って、文法や発音を気にしなくていい、日本にはない忘れがちな感覚だと思います。またネイティブではない人が話す英語の特徴も感じられて面白いです。ただ、留学生自身が「自分は日本語があまり上手ではないから相手は英語で話しかけてくる」と感じるようなことがないように相手の様子を見ながらコミュニケーションを取るように心がけています。



協定留学生の自国での語学学習法にはヒントがいっぱい！



ドイツ アスヤ ユナルさん (ハイデルベルク大学からの協定留学生)

ドイツから来た留学生アスヤ ユナルです。私はドイツに生まれましたが、両親の出身はトルコですので、バイリンガルとして育ちました。

ドイツでは他の子供と同じく小5で、英語の勉強を始めました。実は中学生の頃までは英語は苦手で、大変でした。授業に全然付いていけなかったし、成績も悪かったです。理由は、英語の勉強は面白くなかったことだと思います。つまらなかつたから、あまり努力しませんでした。そしてその頃、日本のアニメを見始めました。最初にドイツ語に翻訳したアニメを見ましたが、どんどんオリジナルの日本語のアニメを見たくまりました。しかし、日本語がわかりませんでしたから、英語の字幕で見なければなりません。そのために、毎日たくさんの英語を読んだり、知らない言葉を調べたりしました。そして、インターネットで世界中のファンたちとアニメについて英語で話すこともありました。それによって、英語力と知識が身につきました。自分が読みたいものを読んだり、自分にとって大事で便利な単語を自然に覚えたりしましたから、楽しかったし、学校の成績も上がりました。外国語を勉強している皆さんにこの方法をおすすめします。映画やドラマを見て、本やコミックスを読んで、インターネットによって他の人たち

と英語で話してみてください。

しかし、そうしても一つの問題が残ります、スピーキングです。私は授業やアメリカに住んでいる親族と英語で話す機会がありましたが、English Chat Time (以下ECT) で気づいたことの一つは、日本人は英語で話す機会が少ないということです。日本では授業で書くことばかりで、話す機会がないと日本人の学生に言われました。そういう学生たちはECTに来て、私たちと英語で話します。せっかくECTに来て、あまり話さない学生もいます。レベルが合わずあまり話せない人もいますが、恥ずかしいから話したくない人もいます。私もときどき日本語で話すことは恥ずかしくてやりたくないときもありますが、それはとても残念だと思います。ECTはドイツの授業に似ています。恥ずかしくても話したらもっと上達するでしょう。

最後に皆さんにアドバイス。ぜひ自分が興味を持っているテーマの本を英語で読んだり、映画を観てください。きっと楽しくて無理せず英語を覚えられるようになると思います。そしてぜひECTに来て、恐れずに英語で話してみてください。



ドイツ ジュン ガオさん (ボン大学からの協定留学生)

When I was six years old I had to attend the elementary school without any knowledge in German language. My mother assigned a home tutor for me who was Chinese and she taught me

once a week German. During the home tutor lessons we mainly focused on a German text and studied the German words. My home tutor explained the meaning of the words as well as how they were used in a sentence. I could not remember the details but I think that it is very important to have a rich vocabulary. After one year I was able to communicate with my classmates. Although my German skills were not on a native level, I could understand and respond to almost everything. The reason why I could master the language would be in my opinion the environment that I live in. Furthermore, I assume that children learn more quickly than adults. I started to learn English in my 3rd year of the elementary school and at that time, we were supposed to study a lot of vocabulary. In addition, the teachers provided exercises on listening and reading comprehension. In high school, the focus had been shifted to reading and understanding texts as well as analyzing. The most crucial aspect of our English education is basically improving your ability to express yourself. In general, students get more opportunity to speak. Examples would be for example making presentations, introducing posters, role plays and doing a speech. Homework also included a lot of writing which were discussed together during the next lesson. During class we often form small groups for doing discussions. This is a good opportunity for each individual to share his opinion. As we know, there are people who are less motivated to speak in front of a large group.

This phenomenon could also be applied to the English Chat Time sessions. At this point, I would like to recommend English Chat Time session to be held in smaller groups. I have come to realize that many of the students are reluctant to speak due to their fear of making mistakes. Furthermore, some of the students became less confident in participating when they realize that other students' English skill is above theirs. In my opinion, smaller groups can help students to open up themselves and moreover encourage them trying to form even more challenging sentences. The reason why German people learn English quickly might be related to their personal hobbies. They like to listen to music. But the main point is that they like to listen to English songs more than to German songs. In class I often see my classmates writing down a whole song text. Another factor would be that they like to watch English dramas or movies. In Germany not many people can access to movies for free on the Internet. One of the remaining options is to search on YouTube where the movies can be watched in English. Also many YouTube users use English for their videos in which they talk very fast. German people get used to listen to the fast speaking maybe by often watching those videos. Another aspect is to do a lot of readings. It could be a novel or short stories, poems etc.. In class we also choose a book and study along with this book by analyzing the characters and the storylines.

In conclusion, it is important to acquire a vast range of vocabulary and to get used to the language used in the daily life.



English Chat Time を活用しよう！

English Chat Timeは英語習得法のひとつとして、協定留学生もおすすめしています。English Chat Timeには、さまざまな国からの協定留学生も参加しているのでEnglishesも楽しむことができます。

※事前申込み制、国際教育センター国際課 (大学1号館2階) で受け付けています。スケジュールは掲示板やウェブサイトを確認してください。

<http://siis.seikei.ac.jp/lang/ect.html>



2015年度大学国際交流賞において
特賞を受賞した学生の活動報告です。

あなたの思い出は カラフルですか？

小山 雄也さん (法学部)

2015年4月12日、私は他大学生15人と南米の現地の音を
集めたサウンドスケープ展を主催しました。開催日の半年前に友
人に誘われ、ダイアログ・インザ・ダークという暗闇純度100%
の室内を視覚障害の方に案内してもらいイベントに参加しまし
た。そこで、頻りに旅行に行く視覚障害の方と話す機会があり、
私は「目が見えないのに、どのようにして景色の情景や旅を感
じているのですか」と質問しました。すると「目が見えないけれ
ど、他の五感を使って音をしっかりと聞いたり、実際に触れたりし
てイメージをしている。日々の生活も変わらないよ。」という思
いがけない回答が返ってきました。綺麗な景色を写真に収める
ことに夢中になり、後日その写真を見返してもあの時の風はど
んな感じだったかなどを思い出せなかった自身の経験を思い返
しました。また、イベントで出会った視覚障害のアテンドの方が、
「自分たちは写真からは何も情報を得ることができない」とおっ
しゃっているのを聞いて、そういった人たちにも地球の裏側の世
界を感じてほしい、思い出や日常を視覚という一色で彩るの
ではなく五感全ての色を使ってカラフルにしてほしいと思い、サウ
ンドスケープ展の開催を決めました。しかし、一人では開催
することは難しく、友人を誘っても断られ続けていた折、スタ
ディツアーというものを発見しました。スタディツアーは現地で
学ぶことは多いけど帰国したらすぐ解散してしまい、日本でアウ
トプットする機会がな

く勿体無いが、帰国後にサウ
ンドスケープ展を開催すれば現地で
の経験に加えて学ぶことも多いと思
い、ツアーの主催責任者に提案し
ました。こうして、私はスタディ
ツアーを通してサウンドスケ
ープ展を企画することにしました。
ある日、東京でマチュピチュや
ウユニ塩湖の写真展が開催され

ることを知り、人々が持っているマチュピチュのイメージに音を
加え、五感の素晴らしさを伝えようと南米スタディツアーに
参加することに決めました。ツアーには関東や地方の大学生15
名が集まり、リマ国際空港でのマリネラダンスのフラッシュモブ
など計5つの企画立案をはじめとするサウンドスケープ展プロ
ジェクトが始まりました。

2015年2月22日、南米出発当日。12日間にわたる南米での
活動が始まりました。23時間かけてペルー国際空港に到着後、
最初の企画であるマリネラダンスのフラッシュモブでは、1ヶ
月間練習してきた努力の成果が実り、歓迎の拍手を頂きました。
翌日からペルーの日本語学校の学生との交流、マチュピチュ遺
跡での録音活動、ウロス島の人たちとカップソング演奏や民族
衣装の体験などをし、陸路でボリビアへ入国しました。ボリビ
アではウユニ大学の学生とゴミ問題についてディスカッション
をする予定でしたが、学生が待ち合わせ場所に来ないというト
ラブルがあり、急遽、大学の教職員の方々とディスカッションを
行いました。世界各国のゴミ政策を紹介と、日本のリサイクル
技術や環境教育についてお話し、ボリビアの環境教育の現状や
課題を議論しました。その後もウユニ塩湖に滞在しながら、トリ
ック写真撮影や星空観察、録音活動を行い、日本に音を持ち帰
ってきました。

展覧会当日。午前中は視覚障害者福祉協会の方やダイアログ・
インザ・ダークの運営をしている方とその紹介で同じ障害を持
った方がご来場され、午後は一般の方も多数来場されました。「今
まで体験したことがなくて面白い」と驚く方が多く、来場した計
150名の方に五感の素晴らしさをお伝えすることができました。
またウユニのゴミ問題の報告をし、環境汚染や環境教育につい
て考えてもらいました。

この経験を通じて、私は自分のやりたいことを実現するた
めには、周囲に断られても諦めず方法を探す粘り強さとお金を得ら
れなくても工夫をすることで乗り越えられることを学びました。
そして、この企画の成功は私の
人生の財産になりました。新た
な創造と共感してくれる仲間と
作り上げるやりがい、それを喜
んでもらったときのやりがいは、
将来、社会人となったときにも
大切にしていきたいと思いま



世界のRecipe

Super Simple Delicious Chicken



料理好きで知られている本学名誉教授のZavislak先生が
「簡単だから、ぜひ作ってみて!」とレシピを紹介してくれ
ました。スパイスはお好み。スライスして、サラダにトッ
ピングして食べるのがおすすめです。

1. Any chicken meat without bones, breast or thigh meat (sasami is great).
2. Coat the meat with "katakuriko" and any spices you prefer mixed in (i.e. curry, paprika or any variety of spices).
3. Cook in olive oil at high heat until browned and turn over and brown other side. (about 1 minute)
4. Turn heat down to lowest and keep completely covered and sealed with heat at lowest for 10 minutes.
5. Turn heat off and do not open for 10 more minutes.



You will have the tender and
flavorful chicken!

2016年度 前期受入れ

協定留 学学生 の紹介



海外の協定校4校から4名の協定留学生を受け入れました。

■ ガーンラウィー ケオマース
Kanrawee Kaewmas
[タイ/チェンマイ大学]

■ シャルリーヌ タロー
Charline Tallot
[フランス/
リヨン第三大学]

■ ベイリー ジョーダン スポーアート
Bailey Jordan Spowart
[オーストラリア/グリフィス大学]

■ シュ セイホウ
朱 成鳳
[中国/上海交通大学]

留学生との国際交流イベント等に関しては下記ウェブサイトをご確認ください。

◆国際教育センター > 国際交流

<http://sis.seikei.ac.jp/ie/>

